

事業中評価チェックリスト

				番号	14
事業名	土砂災害対策事業 (砂防)	路線・河川 ・地区等名	ひらいしみずさわ 平石水沢	施行 場所	やまがたしかみひがしやま 山形市上東山
評価該当基準	事業中評価実施後5年を経過した時点で継続中の事業			実施主体	山形県
事業採択年度 目標年度 [当初目標年度] (過年度評価時目標)	H12 R10 [H23] (R6)	全体事業費(進捗度%)	14.0 億円 (64.7%)	事業延長等	砂防えん堤 4基
		内工事費	10.3 億円 (53.9%)		
		内用地・補償費	1.2 億円 (96.1%)	供用延長等	砂防えん堤 2基
		内測試費等	2.5 億円		
事業の目的(地域性・特質性) ・平石水沢は、山形市北東部に位置し、一級河川村山高瀬川に注ぐ流域面積 6.950 km ² 、流路延長 6.0 km、平均河床勾配 1/14 の急峻な溪流である。 流域内は荒廃が進み降雨のたびに土砂流出が著しく、今後予想される大規模な土砂災害を未然に防止するため、砂防えん堤工4基を整備するとともに、高沢地区の孤立化を防止するものである。					
事業概要(主要工事内容) ◆主要工事:砂防えん堤4基					
事業の実施状況 ・令和5年度末時点で、3号・4号えん堤が完了し、5号えん堤に着手しており、用地補償の進捗率は 96.1%である。 ・事業の進捗率は 64.7%である。					
上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード) ・第4次山形県総合発展計画 → 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり(政策の柱 4) ・やまがた水害・土砂災害対策中期計画→確実に効果的な砂防関係施設の整備(4.2 土砂災害対策編 取組 2)					
今後の事業の見通し ・5号えん堤について、R7年度の完成に向けて工事を進め、R8年度から2号えん堤に着手予定である。					
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ① 国、県の政策や計画の転換等 暮らしの安全・安心に直結する事業であり、政策や計画の転換はなし。 ② 財政状況の変化 財政状況に変化はない。 ③ 事業実施地域の周辺環境の変化 近年、局所的な集中豪雨が多発しており、土砂災害対策の必要性が高まっている。 ④ 地元の協力体制の変化 事業に対する反対者はなく、協力体制に変化はない。 ⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 保全対象に大幅な変化はない。 ⑥ 代替方策による必要性の変化 土石流による土砂災害を防止するためには砂防えん堤工は最善の方策であり、代替方策はない。また事業の必要性に変化はない。 ⑦ その他 地域住民の高齢化に伴い地域の防災力の低下が進行しており、この観点からも防災設備の整備が急務であり、本事業を早期に概成させる必要がある。					
事業の投資効果 (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例					
投資効果	●平石水地区の人家 41 戸の家屋、家庭用品被害及び人的被害を軽減する。 ●市道 1,260m、橋梁、公民館等の施設被害を軽減する。 ○土砂災害に対する不安感を解消し、安心感が向上する。				
社会的割引率	B/C	B/Cの代表的 な分析指標	・総便益の現在価値 (B)		
4%	2.4		39.3 億円		
2%(参考値)	3.3		・総費用(事業費+維持管理費)		
1%(参考値)	4.1		の現在価値(C) 16.7 億円		
●コスト縮減・○代替案等の可能性 ●計画時及び工事発注時に工法・資材等の検討を行い、コスト縮減に努めている。 ○土石流対策としての防災施設は砂防えん堤が最も効果的かつ合理的であるため、代替施設はない。					
当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄) ・事業計画地が共有地のため取得困難であり、適地選定に時間を要したため。					
評価区分	継続 A	評価の理由	計画より4年遅れとなるが、事業の重要性、地域の要望・協力等を総合的に検討した結果、継続が妥当と判断した。		